

つながり

特集

乳がん治療を支えるチーム医療



目次

特集 乳がん治療を支えるチーム医療	1p-4p
がん相談はどこでできるの？	5p
妊娠できるか相談できる？	6p
患者会（りんりんの会）について	6p
地域の医療機関のご紹介	7p

ご自由にお取り
ください



形成外科医

がん・生殖医療
専門心理士

乳腺外科医

乳がん看護
認定看護師

放射線治療医

特集 乳がん治療を支えるチーム医療

がんという病気は身体的変化だけでなく生活も変えてしまう病気です。なかでも乳がんは、日本人女性がかかるがんの中でも最も発症率の高いがんとされており、日本人女性の10人に1人が乳がんを発症するという推計もあります。大崎市民病院本院では、病気を治すだけでなく、患者さんの希望や生活を見据えて、医師のみならず、看護師、放射線技師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）などが、チームとなって患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供するよう日々努めています。当院で行っている、乳がん患者さんを支えるチーム医療をご紹介します。

文責：乳腺外科医 吉田 龍一

■当院の治療体制

当院は、外科とは別に乳がんや乳腺炎などの疾患を扱う乳腺外科を設けています。乳腺外科は、診断から治療、終末期まで総合的な医療を施す診療科です。複雑な薬物療法も扱うため、より専門的な分野として発展してきました。近年は、診断や治療において新しい医療機器や薬剤が開発されたことで治療成績は格段に飛躍し、治療ガイドラインも整備され、遠くの医療機関まで行かなくても全国各地でも一定レベルの治療が受けられます。

当院では、現在2人の乳腺外科医が常勤し、地域の医療機関から

多くの患者さんを紹介していただき、県北の乳がん診療を担っています。また、がんの広がりや転移の有無を確認するためのCTやMRI、PET-CTなど最新の診断医療機器を備えているだけでなく、抗がん剤治療を行う外来化学療法センターや、がん細胞に放射線をあて治療を行う放射線治療科もあります。総合病院であることから必要に応じて他の診療科に診療を依頼することもできますし、診断から治療まで一施設で行えるという充実した治療体制と乳がん看護認定看護師をはじめ、各種認定看護師、薬剤師、がん・生殖医療専門心理士、がん相談窓口、が

多くの患者さんを紹介していただき、県北の乳がん診療を担っています。また、がんの広がりや転移の有無を確認するためのCTやMRI、PET-CTなど最新の診断医療機器を備えているだけでなく、抗がん剤治療を行う外来化学療法センターや、がん細胞に放射線をあて治療を行う放射線治療科もあります。総合病院であることから必要に応じて他の診療科に診療を依頼することもできますし、診断から治療まで一施設で行えるという充実した治療体制と乳がん看護認定看護師をはじめ、各種認定看護師、薬剤師、がん・生殖医療専門心理士、がん相談窓口、が

んサロン、患者会（乳がん体験者の会りんりんの会）、遺伝外来、緩和ケアチームなどがあり、患者さんへの支援体制を整えています。

■乳がんの特徴

乳がんには他のがんと違った特徴があります。それは、①ほとんどが女性患者であること、②比較的若い方がかかりやすいがんであること、③比較的治りやすいがんであること、④集学的治療（手術、薬物療法、放射線療法などを組み合わせた治療）を行うこと、⑤がんサバイバーシップケア（P2参照）が重要であることです。



社会福祉士

がん看護師
専門看護師

放射線技師

■手術

乳がんの治療は、主に手術・薬物療法・放射線治療の3種類に分けられます。以前は乳房を大きく切除することが治療につながると考えられていましたが、今は薬物療法や放射線治療の発達に伴いより小さく切除しても治療することができるようになりました。当院では、がん切除などの手術によって引き起こされる身体的な変形やへこみに対して姿や形を整えることを考慮した乳房温存手術を行っています。また、乳房全切除後も乳房再建術を勧め、術後のボディイメージの変化から生じる悩みを最小限にできるよう考えています。

■薬物療法

乳がん治療で用いられる薬物療法は、主に、ホルモン療法と化学療法（抗がん剤治療）です。化学療法は、専用の外来化学療法センターで行います。化学療法で大切なことは副作用管理です。抗がん剤というと、ひどい副作用のイメージがありますが、近年、副作用を軽減する様々な薬剤が開発された

ため、少なくとも乳がんの領域では副作用がひどくて入院を要するようなことはほとんどなくなりました。反対に、副作用管理は自分で行わなければならない、不安が大きいのも確かです。当院は24時間対応の救急外来があり、休日・夜間に体調を崩しても受診することは可能です（ただし、あくまで応急処置です）。また、副作用の脱毛や皮膚障害などに対しては、認定看護師がケアを行っています。

■放射線療法

放射線療法はあらゆるがんの種類に対応する治療法ですが、特に乳がん治療では欠かせないものです。例えば、乳房温存手術後には残した乳房に再発することを防ぐため、必ず放射線照射をします。照射をすることによって乳房全切除と同様の効果が得られます。また、乳房全切除後も再発リスクの高い方には胸壁照射をすることで再発予防が期待できます。その他、転移・再発部位に対しても、特に骨転移や脳転移などの症状緩和に放射線療法は欠かせません。当院は宮城県内でも数少ない放射

線療法を行える病院であり、常勤の放射線治療医が、当院だけでなく近隣の医療機関の患者さんにも治療を行っています。

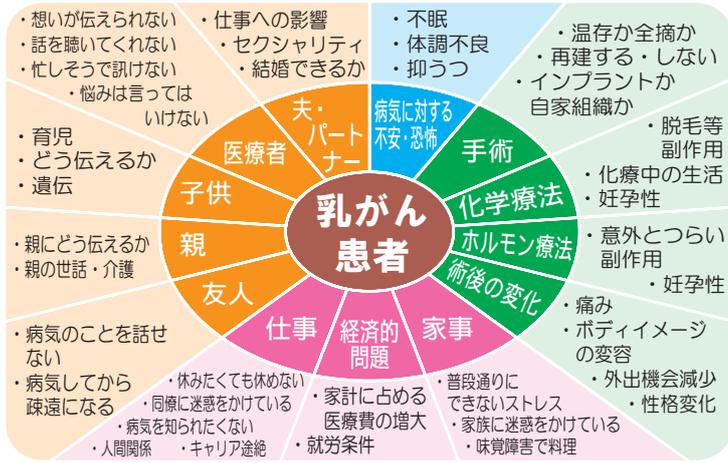
■外来患者の皆さんへ

乳がん罹患者数は年々増加傾向にあり、治療の発達のおかげで予後がよいこともあり、外来患者数は年々増えています。当院では、化学療法（薬物療法）もほぼ外来で行っており、その副作用の対策等で診察時間がかかり、限られた時間で多くの患者さんを診るよう努めています。中には、時間をかけて診察しなければならぬ方もいて、自然に待ち時間が長くなってしまう、なかなか予約時間どおりに診察できず申し訳なく思っております。できるだけ待ち時間を少なくしようと日々努力しておりますが、やむを得ずお待たせしてしまっていることをご了承ください。

■がんサバイバーシップとは？

ごくまれに男性の乳がんもありますが、女優や女性タレントが乳がんになったとニュースで話題に

図1 乳がん患者が抱える問題



なるようにほとんどが女性患者です。また、罹患年齢が若いため、仕事や家事だけでなく子育て、あるいは介護など日々多くのことに追われている中で治療をしなければならず、病気だけでなく、精神的、経済的、社会的にも多くの問題を抱えています(図1)。

これらの問題を乗り越えながら生活していくことを「がんサバイバースhip」といいます。このような問題解決には医師だけで対応することは困難で、診断・治療を

進める中で多くの職種が関わり様々な制度を利用しながら、できるだけ患者さんに寄り添った医療を提供したいと考えています(図2)。

特に再発の場合には、治癒を得ることは難しくがんと共存したままいかにして生き長らえるか、いかに長く普通の日常生活を送ることができかが治療の本質になるため、患者さんの満足度を高めるために多くの職種が関わっています。

このように医師だけではない多職種が連携を取って患者さんを診ていくのがチーム医療であり、当院ではチームでサバイバースhipの支援を行っています。

■リンパ浮腫外来

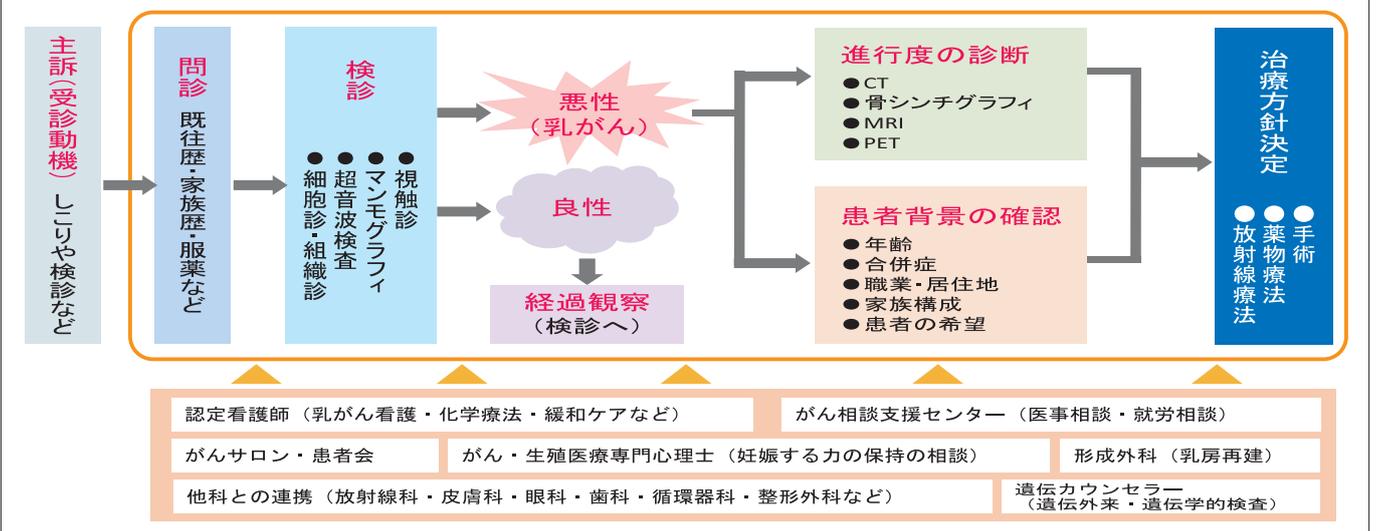
乳がん手術後の後遺症のひとつにリンパ浮腫(リンパ節を取り除く手術や放射線治療によりリンパの流れが滞り、腕や脚がむくむこと)があります。特に脇の下のリンパ節を全部取った患者さんに多く見られます。術後数週から数年後に手術をした側の腕がむくんできます。きっかけは様々で、重いものを持つたり畑仕事などをした

後、あるいは何もきっかけが無い場合もあります。リンパ浮腫が悪化すると腕全体が太くなり、重くなったり指が曲げられなくなったりと日常生活に支障をきたすこともあります。このような方のために、当院には資格を持つリンパ浮腫セラピスト4人が交代で週2回リンパ浮腫外来を開設し、セルフケアの指導などを行っています。

■乳がんと遺伝の関係

乳がん患者さんの約1割が遺伝によって発症するといわれています。そのひとつにBRCA1/2という遺伝子の異常によって引き起こされる遺伝性乳癌卵巣癌症候群(いんせいにゅうがんらんそうがんしやうぐん)というものがあります。遺伝性というのは先祖代々受け継がれてきた遺伝子異常によるものですから、血縁関係者に複数の乳がん

図2 診療の流れと多職種の関わり



患者がいるなどの特徴があります。当院では乳がんを発症した方のうち、そのような特徴を持つ方に、遺伝学的検査を受ける事を推奨しております。患者さんにとって遺伝性かどうか気になるところですが、遺伝性と判明した場合、自分が将来またがんになるのかや、子ども・親兄弟は大丈夫かなど余計な不安を持ってしまいう危険もあります。ですから、ただ検査すればいいのではなく、そのメリット・デメリットを知り、もし遺伝性だと判明した場合どのような対策を取ることができるのかを知っておく必要があるため、遺伝外来を受診していただいた上で遺伝学的検査を受けていただくことにしています。

■患者会

当院では当院の乳がん患者さんを中心にできた「りんりんの会」という患者会を支援しています。毎月定例会を開き様々な情報交換をしたり、年2回は講演会を開催し、乳がんについて勉強したり、癒やしの時間を過ごしたりしています。詳細はP.6をご覧ください。

乳がん検診を受けましょう！

がんを治すには早期発見が大切です。乳がん検診には、一般にマンモグラフィと超音波検査が用いられます。

検診には対策型と任意型があります。対策型検診はいわゆる集団検診で、乳がんの場合、市町村の援助を受け2年に1回マンモグラフィ検診（40歳以上）が行われています。当院の健康管理センターでは大崎市の乳がん検診を受け付けています。

任意型は受診者自身が自費で行う検診で、職場の検診も含まれます。毎年受診し超音波検査とマンモグラフィの両方を受けることが可能です。当院健康管理センターでは任意型検診も行っています。

乳がん検診は2年ごとでいい方もいればそうではない方もいます。隔年では心配という方は当院健康管理センターでマンモグラフィや超音波検査の受診をお勧めします。女性職員が対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

健康管理センターお問い合わせ先

〒989-6174

大崎市古川千手寺町二丁目3番15号

◆予約専用：TEL 0229-23-3471

FAX 0229-23-3472

◆予約受付：月曜日～金曜日（土日祝祭日除）

8:30～16:00



■がんにかかっても妊娠はできる？

近年、20～30歳代のがん患者さんが増えています。若年者の場合、仕事以外にも、結婚、妊娠、出産などが治療のうえで問題となることがあります。特に子どもが欲しい方の場合、化学療法や長期のホルモン療法などのために妊娠・出

産ができなくなる可能性があります。近年、生殖医療の進歩により薬物療法をしても妊娠できる可能性が高くなりました。化学療法を必要とする妊娠可能な年齢の患者さんで子どもを産みたいと希望をしている場合、当院では生殖医療専門の心理士に相談ができます。詳しくはP.6をご覧ください。

乳がん看護認定看護師の役割

乳がん看護認定看護師

岩井美里

乳がん看護認定看護師には、がんと診断された後の患者さんやご家族の気持ちのサポートのほか、治療に伴う副作用やリンパ浮腫に対するサポートを行うなどの役割があります。

当院では、乳腺外来の診療に同席し、患者さんがどのように思っているのか話を伺いながら必要部署への橋渡しを行ったり、患者さんの情報を整理したり、術式選択に悩んでいる患者さんであればどの方法がその方にとって一番良い方法なのかを一緒に考えたりしています。

治療をしていてもその人らしい生活を送れるように、患者さんだけでなく、ご家族も含めてサポートしていきます。治療以外の事も含め、何か気になることがありましたらお気軽にご相談下さい。



がん相談はどこでできるの？

がんに関する治療や療養生活全般の様々な心配ごと（治療や診断の説明内容、症状や副作用・後遺症、医療費・生活費、心理的不安、仕事・就労など）については本院1階にあるがん相談支援センターで相談することができます。がんについて詳しい看護師や、生活全般の相談ができる医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）などが相談員として対応しており、患者さんやご家族のほか、どなたでも無料でご利用いただけます。（予約不要）
がんの診断から治療、その後の療養生



活、さらには社会復帰と、生活全般にわたって、疑問や不安を感じたとき、一人で悩まず、ご相談ください。

また、がん相談支援センターでは、「がん患者さんやそのご家族などが集まり、交流や情報交換（情報収集）する場」として、がんサロンを設置し運営しています。

本院2階にあるがんサロンでは、定期的なピアサポーター（がん体験者）との「おしゃべりサロン」や補正用手作り乳房パッド講習会などの催しを行っているほか、社会福祉士や臨床心理士による相談会や医療用ウィッグ・メイク・ハンドケア・相談会も定期的に開いておりますので、がんサロンにもぜひお立ち寄りください。



妊娠できるか相談できる？

妊孕性（にんようせい）という言葉をご存じですか？妊孕性とは、妊娠する力のことを言います。

抗がん剤、放射線治療、手術などのがん治療の影響により、妊孕性が低下や喪失することがあります。最近では、妊孕性の低下や喪失に備えるために、がん治療前に卵子や精子、受精卵、卵巣組織などを採取・凍結保存し、がん治療終了後に生殖医療を行い、妊娠を目指すことが行われるようになってきました。これらの医療をがん・生殖医療と言います。

がん・生殖医療はがん治療前に行うため、行うかどうかの判断もがんの治療前に行う必要があります。がんと診断された際に、ショックで何も考えられない、怖いことや不安なことばかり思い浮かんでしまうということは自然な気持ちの流れです。この心の揺れの大きい中、将来の妊娠・出産の可能性について考え、卵子や精子の保存をどうかを決めることは、難しい場合が多いです。また残念ながら、がん・生殖医療を行っても子どもを



渡邊 裕美 心理士



授かるとは限りませんし、金銭的負担も大きいものがあります。パートナーやご家族と一緒に考える必要もあり、決断は容易ではありません。

当院では、東北に2人しかいないがん・生殖医療専門心理士の資格をもつ臨床心理士が相談に応じています。主治医や看護師、多職種チームとともに、医療情報の整理を行い、気持ちや考えに寄り添いながら自己決定のお手伝いをします。

ご希望の場合は、主治医や看護師にお申し出いただくか、がん相談支援センターにお声がけください。

患者会（りんりんの会）について

当院の乳がん患者さんを中心にできた「りんりんの会」という患者会があります。同じ病気の体験者同士で支え合い悩みや不安を解消し、生きる希望につなげることを目的としています。患者にしかわかり得ないつらさや苦しみがあります。医療者よりもむしろ経験者の方が的確なアドバイスができることもあ

ります。りんりんの会は体験者同士の交流以外にも、ピアサポーターとして告知されたばかりの患者さんのサポートや生活における悩みの解決にも役立っており、患者さんの強い助けとなっています。



地域の医療機関のご紹介

当院は、身近な医療機関と役割分担を図り、地域全体で切れ目のない医療を提供することを目指しています。こちらでは、当院の登録医療機関(かかりつけ医)をご紹介します。

医療法人清人会 中新田クリニック

診療科目：
内科・循環器内科
〒981-4253
加美郡加美町字大門20
TEL：0229-63-7676

診療時間：
【月・水・金】
午前9時～11時30分
(受付9時～11時30分)
午後2時～5時30分
(受付2時～5時30分)

【火・木・土】
午前9時～11時30分
休診日：日・祝祭日

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	-
午後	○	-	○	-	○	-	-

●院長
上田
仁
先生



地域の
みなさんへ

当院は、約25年前より加美郡加美町に透析医療を中心に、無床診療所として開業しています。透析ベッド数は約40床で、原則として、朝からの透析と、午後からの透析と2種類の方法で行っており、現在約80名の患者さんが通院治療を受けています。

診療内容は、腎臓内科、循環器科、乳腺外来を中心に診察しており、透析療法は原則として、患者さん自身に通院して貰っていますが、通院困難者には、バスによる送迎を行っています。



●院長
新田
篤
先生

涌谷町国民健康保険病院

診療科目：
内科・外科・整形外科・眼科・麻酔科・泌尿器科・肛門科・皮膚科・消化器内科・神経内科・婦人科・呼吸器内科

〒987-0121
遠田郡涌谷町涌谷字中江南278
TEL：0229-43-5111

診療時間：〈内科〉※その他の診療科については病院へお問い合わせください。

【月～金】
午前8時45分～正午
(受付 7時45分～11時30分)
午後3時～5時15分
(受付 4時45分まで)

休診日：土・日・祝祭日・年末年始

〈一般内科〉	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	-	-
午後	○	○	○	○	○	-	-

地域の
みなさんへ

涌谷町国民健康保険病院は、町が開設した町民医療福祉センターの中心施設として、併設の老人保健施設及び訪問看護ステーションと連携しながら、地域包括ケア医療・ケアを実践しています。病床数は、一般病棟67床、療養病棟41床、地域包括ケア病床13床の合計121床です。高度急性期医療を要する場合は大崎市民病院に対応していただいています。急性期治療終了後のリハビリや回復期から慢性期の継続治療が必要な患者さんを積極的に受け入れています。

これからも、なお一層地域包括医療・ケアを充実させ、地域住民の信頼に応えられるような病院を目指していこうと考えています。

つながり

大崎市民病院広報誌「つながり」No.18
2019年8月発行
一回発行は2019年11月の予定です

大崎市民病院

〒989-6183 宮城県大崎市古川穂波三丁目8番1号
TEL 0229-23-3311 FAX 0229-23-5380 URL <http://h-osaki.jp>

大崎市民病院

検索

